

丹波篠山 市議会だより

No. **114**
2025.4



■ 議会だよりの紙面構成を リニューアルしました！

■ 令和7年度当初予算審査 P2～3

■ 一般質問15人が登壇 P9～14

作品介绍 「パリオリンピック」

2024年夏に行われた「パリオリンピック」をテーマに、篠山養護学校幼稚部・小学部の幼児、児童で作品作りを行いました。背景のフランスの国旗は、青・白・赤の3色を各クラスごとに刷毛やローラー、筆を使って制作しました。ダイナミックに塗る子や塗り残しがないように丁寧に塗る子など、それぞれが思いを込めて模造紙に塗っていきましました。パリオリンピックを応援している気持ちで自分の顔を描き、周りに貼りました。高学年は、ちぎり絵や輪つなぎにも挑戦しました。「PARiS2024」は、ちぎり絵で表現しました。五輪は折り紙で輪つなぎにしました。輪つなぎは友達と協力しながら作りましました。一人一人が輝く共同作品に仕上がりました。

実際の作品サイズ：縦 1 m68cm×横 2 m30cm

次回の会議は6月に
開催します。

【第126回 水無月会議】

6月 3日(火) 本会議(第1日)

議案提案 他

6月18日(水) 本会議(第2日)

一般質問 他

6月19日(木) 本会議(第3日)

一般質問 他

6月26日(木) 本会議(第4日)

委員長報告 他

(常任委員会・分科会)

○予算決算委員会分科会

補正予算審査

6月 4日(水)総務文教

6月 5日(木)民生福祉

6月 6日(金)産業建設

6月17日(火)全体会

◎いずれも午前9時30分開会予定。どうぞ傍聴にお越しく下さい。なお、市のホームページ(ユーチューブ)でも本会議を中継します。また、市役所本庁舎(1階ロビー・4階議場前)に設置のモニターでも本会議の視聴が可能です(リアルタイムのみ)。

※傍聴にあたり、託児を希望の方は開催日の2週間前まで、手話通訳を希望の方は開催日の4週間前までに議会事務局へご相談ください。

※議会だよりに対するご意見やご感想は、下記までお寄せください。

TEL (079) 552-6855

FAX (079) 552-7104

gikai_div@city.sasayama.hyogo.jp

丹波篠山市議会だより 第114号

令和7年4月21日発行

編集・発行

丹波篠山市議会広報特別委員会

堀毛宏章・本多紀元・金崎美和

前田えり子・降矢杏奈・大内正博

〒669-2397 兵庫県丹波篠山市北新町41番地

TEL (079) 552-6855

丹波篠山市議会 検索



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを採用しています。



環境にやさしい
植物油インキを使用しています。

クイズで答えて図書カード!!

問1

新たに設置された「議会改革調査特別委員会」の委員数は？

①6人 ②10人 ③18人

問2

道の駅整備が行われる地域はどこ？

①西紀 ②丹南 ③今田

問3

フランスの国旗に使われている色は？

①青白赤 ②赤白緑
③青黄赤

答えはすべて「紙面の中」にあります。

応募方法

官製はがきに「答え」・「住所」・「氏名」・「年齢」を記入してお送りいただくか、下記の二次元バーコードからご回答ください。正解者の中から抽選で15人の方に「図書カード」をプレゼントします。

☆あて名 〒669-2397

丹波篠山市北新町41番地

丹波篠山市議会 議会事務局 応募フォーム



☆締切日

令和7年5月21日(水)《当日消印有効》

※応募いただく「はがき」のスペース(空白)に「議会だより」に対するご意見やご感想をお聞かせください。

※「はがき」にご記入いただいた個人情報は、目的以外に一切使用いたしません。

※クイズの答えは次号に掲載いたします。また、当選者の発表は図書カードの発送をもってかえさせていただきます。

まらなみ

「分かりやすく、読みやすい」市議会だより！を合言葉にしてからまもなく一年。成果はいかがでしょうか？今号からは体裁でも横書き主体のレイアウトに変更しました。クイズの回答の際にご意見もお寄せください。(堀毛)

議会広報特別委員会は、毎回会議の最後の最後に実施されるので帰るのが一番遅くなります。みんなで時間をかけて、工夫をこらした議会だよりを作っていますので、ぜひ、たくさんの方に読んでいただけて幸いです。(本多)

「丹波篠山国際博 日本美しい農村、未来へ」が開幕し、魅力溢れる楽しいイベントが市内各地で開催されています。国際博を機に、今までいった事のない地域のイベントにも参加し、丹波篠山全域を満喫してください。(金崎)

戦後80年・被爆80年の今年。「丹波篠山国際博 日本美しい農村、未来へ」が開催されています。こうした取り組みも平和であってこそ。戦争も核兵器もない平和な世界を願う声を「非核平和都市宣言のまち」から発信しよう。(前田)

正解のない時代をチャンスと捉え、議員として市政に挑む2年目の春。自分らしさを大切に、新たな出逢いを紡ぎ、地域の未来を切り拓くために邁進します。(降矢)

3月29日から「丹波篠山観光ポート」スタート！桜舞う春の風景を、水上からゆったり満喫しませんか？家族やカップルで楽しいひとときを♪心癒される特別な体験を丹波篠山で体験しよう！(大内)

広告

各種建築板金工事(屋根・外壁・雨樋) / 一般土木工事(基礎・埋立・造成)
内装工事(軽天・木工事、各種造作全般) / 解体工事(木造・鉄骨・RC解体)

建 馬場板金

建設業許可 / 兵庫県知事許可 第752258号
産業廃棄物収集運搬業 / 兵庫県知事許可 第02808152412号

TEL 079-557-0560
FAX 079-506-4535
〒669-2504 兵庫県丹波篠山市西野々28

広告

軽自動車 買取強化中!

動かないお車も喜んで買取ります!

詳しくは ☎0120-338-196

市内全域出張査定無料

HPからのお問合せはこちら

福山オートセンター

〒669-2202 兵庫県丹波篠山市東吹830
(営業時間 9:30 ~ 18:30 定休日 毎週火曜日)

総額445億9,275万円

令和7年度当初予算が「弥生会議」に上程されました。審査は、予算決算委員会に付託し、総務文教、民生福祉および産業建設の各分科会で審議しました。

その結果、一般会計、特別会計(3会計)および公営企業会計(2会計)のすべてを原案通り可決しました。予算決算委員会の主な審議内容についてお知らせします。



一般会計	254億2,400万円
特別会計(3会計)	109億3,529万円
公営企業会計(2会計)	82億3,346万円

一般会計

■図書館管理運営費

問 乳幼児を連れた保護者が図書館でゆっくり読書ができる環境づくりとして、新たに託児を始めるとのことだが、詳細な説明を。

答 託児の対象を生後6ヵ月から就学前の乳幼児とし、事前申し込み制、最大2時間 4人程度で、5月から6月に試行する予定である。また、託児は創作活動室を利用し、託児ボランティアにお世話になる予定で、図書館の司書による読み聞かせも計画している。

■給食事業(給食費の一部無償化)

問 給食費の一部無償化を行う対象者の基準は。また、令和7年度は、国の重点支援地方交付金を活用し、給食費の一部無償化を実施することであるが、令和8年度以降については、どのように考えているのか。

答 義務教育である小・中学生を対象とし一部無償化とする。令和8年度以降については、国の動向を注視しつつ、子育て世代の経済的支援の観点から、規模の見直しなども踏まえて継続していきたい。

■清掃センター事業

問 昨年の条例改正で、産業廃棄物の「埋立てごみ」は、本年7月以降受入れないが、そのことは予算に反映されているのか。また、埋立て地の余力がないため、埋立て廃棄物を市外の処分場へ搬出することであるが、今後の予定は。

答 本年7月以降、「事業系埋立てごみ」および火災廃棄物のうち事業者が解体した「埋立てごみ」は受入れないが、個人が解体した「埋立てごみ」は有料で受入れることから、予算としては大きな変化はないと見込んでいる。

「埋立てごみ」の処分場へ搬出スケジュールについては、令和7年度中に調査・検討を始め、令和8年度には少しでも搬出していきたい。

■道の駅の整備事業(P17に関連記事)

問 設計監理業務が約1,800万円、整備工事が2億3,600万円と大きな金額であるが、進捗状況は。

また、実際の工事期間としては半年ほどかかると思うが、予算の繰越等も考慮しているのか。

答 現在、「基本設計業務」に取りかかっている段階であり、それと並行しながら、本年3月に詳細設計業務の繰越を前提に発注する予定である。その後、整備工事の発注は、本年の夏から秋頃を考えているが、秋以降となれば、全てを年度内で完成させることは非常に厳しいスケジュールであると認識しており、繰越も視野に入れている。

特別会計

■国民健康保険特別会計

問 今田診療所管理費に関し、LEDの照明工事費用が748万円となっているが、工事のスケジュールは。

また、他の診療所におけるLED化の状況は。
答 令和12年度までに市の施設のLED化を進めるという計画に基づき、令和7年度に今田診療所、令和8年度に草山診療所、令和9年度に東雲および後川診療所で実施する予定である。

今田診療所の工事は、照明のちらつきや点灯しない箇所が見受けられるため、本年度の改修工事となる。

■介護保険特別会計予算

問 在宅医療・介護連携推進事業に関し、「篠山つながり手帳」をより効果的に活用できるよう、電子化を目指し協議を行うとのことであるが、具体的にどのような電子化を想定しているのか。

答 「篠山つながり手帳」は、特にスマホを持っておられない方や認知症の方に利用いただいている。

今回の電子化については、介護事業所や医療機関など事業者間での情報共有を想定している。

また、遠方で暮らす要介護高齢者のご家族が、デイサービスでの様子や医師がどのような説明をしているのか確認できるよう、つながり手帳の電子化を目指したい。

公営企業会計

■水道事業会計予算

問 会計が厳しい中、休止した施設や用地を売却したり、用地の草刈りなど維持管理費を減らしていくことで改善できないか。

答 水道事業について、廃止施設の処分できないかどうか、不動産鑑定士にも相談をした。その中で、候補となったのが、東吹(ひがしぶき)の施設跡地、村雲地内の浄水場、および矢代の施設などであったが、地下の貯水槽などの撤去が必要で費用がかかる。撤去費が捻出でき、更地になれば売却出来るのではないかと考

えているが、その撤去費の捻出が今の段階では難しい。検討はしていきたい。

■下水道事業会計予算

問 「あさぎり苑」の乾燥污泥機械が12年経過し劣化しているということであるが、今後の方針について。

答 乾燥施設について、地域との協議も踏まえて検討している。今までは機械をできるだけ使うという方針で修繕してきたが、機械の更新の時期を迎えつつあり、技術員の退職もある。新年度に具体的な協議を進めていきたいと考えている。

市長への委員長質問 将来的な防災情報伝達システムのあり方を問う


【市長答弁】 市全体の防災無線の整備については、市内の他の地区でも防災ラジオの整備やデジタル化工事を段階的に行ってきた。しかし、地域特性や予算の制約のため、全市統一の設備整備には至っていない。災害時の情報伝達手段について多重化が求められるなか、丹波篠山市では防災無線に加え、防災メールや市公式ライン、テレビなどのメディアによるアラートなど様々な媒体を活用している。今後引き続き、市民の防災意識向上に努めるとともに、社会環境の変化や国、県の防災施策を見据え、財政支援措置の動向にも注視し、適切な情報伝達体制の確保に努めていく。

【質問】 西紀行政無線の機能を、今後とも維持するためデジタル化は必要であると認識している。しかし、この方式は市全域ではなく、篠山地区、後川を除く城東地区、丹南地区及び今田地区では、戸別受信機は各自治会の役員宅など一部の設置となっており、多紀地区及び城東の後川地区は、有線放送による情報発信となっている。そのことよって、災害発生時において、異なる情報伝達の方法が避難行動などに影響を及ぼすことも懸念される。今後の長期的な防災情報の伝達方法について市長の考え方を問う。

「審査意見」

自伐型林業に「環境創造型」という名称をつけることについては、山に関わる全ての方が森林環境や災害に配慮した施策を行い、本市の全体的な森づくりにおいて環境に配慮することが望ましく、あえて「環境創造型」という名称をつける必要性はないと考える。

多様な林業者による森林整備を推進するという観点から、全ての林業者が環境に配慮した森づくりを行うことが重要であり、自伐型林業だけが環境創造型林業ではないということを当局は理解の上、この名称の使用については、十分な配慮が必要である。



弥生会議で可決した補正予算

弥生会議では、議案第15号～第20号、第37号～39号(※)の補正予算を即決、第21号～第26号までの補正予算を予算決算委員会に付託し各分科会で審議の上、3月4日会議で可決しました。



2月4日補正予算(即決)の概要

議案	議題	目的	補正額
15号	令和6年度丹波篠山市一般会計補正予算(第10号)	人事院勧告に伴う給与・手当の改定、ふるさと応援寄附金の増額対応、低所得世帯への生活支援給付金の支給、ABCマラソンへの企業版ふるさと納税活用	5億2,984万円

※3月25日補正予算(即決)議案37号～39号は、繰越明許費の補正である。

3月4日補正予算の概要

議案	議題	目的	補正額
21号	令和6年度丹波篠山市一般会計補正予算(第11号)	決算見込みや事業精査に基づく予算の減額調整、国の補正予算に伴う普通交付税等の追加反映、農業・道路・教育・福祉等必要事業の追加実施等	歳入歳出それぞれ2億3,470万円の減額
22号	令和6年度丹波篠山市国民健康保険特別会計補正予算(第4号)	事業精査、給付費償還金追加、収納見込み調整	事業勘定 △3,736万円 診療所勘定 △1,246万円
23号	令和6年度丹波篠山市後期高齢者医療特別会計補正予算(第3号)	保険料収納見込みの増加に伴う納付金の増	3,890万円
24号	令和6年度丹波篠山市介護保険特別会計補正予算(第4号)	給付費・地域支援事業等の精査、基金積立増 予防事業費の執行見込み精査	介護保険事業勘定 △1億4,593万円 介護サービス事業勘定 △32万円
25号	令和6年度丹波篠山市水道事業会計補正予算(第3号)	収支精査による収入・支出・企業債の整理	収益的収入 2,074万円、収益的支出 △117万円、資本的支出 △2,210万円、資本的収入 △2,210万円
26号	令和6年度丹波篠山市下水道事業会計補正予算(第3号)	事業費・補助金・企業債の精査による減額	収益的収入 △465万円、収益的支出 △2,712万円、資本的支出 △6,174万円、資本的収入 △6,177万円

主な質疑

議案	議題	質疑	回答
21号	公共交通対策事業	デマンド交通にスムーズに移行できているか。	1日9.5人利用。LINEやアプリでの予約も可能だが電話予約が多いため、説明会実施を予定。
	学校教育充実事業	令和8年に部活動を地域に完全移行できるのか。	「地域移行」と「地域連携」を併用。令和8年度の土日には地域主導に移行予定。
	公園施設管理費	遊具点検の基準や対応は。	年1回の職員による点検以外に、3年ごとに専門業者が点検。腐食確認時は撤去を行う。
	鳥獣被害対策事業	サギ対策の成果と苦情の現状は。	河原町はまだ改善に至らず、黒田地区は改善がみられる。引き続き地域と連携し対策を継続。
22号	医療用衛生材料費	衛生材料費が減額された理由は。	患者減と高額薬の不使用が主因。ジェネリックによる影響ではない。
24号	介護給付費	介護給付費減額の具体的理由は。	要介護中・重度者が減少。介護医療院の増床の遅れも影響。
25号	衛星広域漏水調査事業	衛星画像での漏水調査の正確度はどれくらい。	衛星による調査180地点のうち、97地点を音調調査し、32件的中。約33%の正確度。
26号	建設改良費	建設改良費の事業は次年度実施予定ということだが、どのような事業か。	特定環境保全公共下水道事業のストックマネジメントの計画策定や管路劣化対策工事などを予定。

弥生会議(3月)で可決した条例改正

■丹波篠山市職員の特殊勤務手当支給条例の一部を改正する条例

地震や洪水等による大規模災害が発生した際、国・県または災害応援協定を締結している地方公共団体からの依頼に基づき、市職員を被災地へ派遣、また、同様の災害が市内で発生した際の対応に備え、災害応急作業手当を支給できるように改正する。

問 本市における市職員の災害対応実績はどうか。

答 平成23年の東日本大震災以降、熊本地震、大阪北部地震、西日本豪雨、北海道の東部地震、能登半島地震において延べ79人の派遣を行っており、市町業務支援、家屋被害認定、避難所運営支援が派遣数の多い業務となっている。

■丹波篠山市災害派遣手当等の支給に関する条例

地震、豪雨、洪水等の災害が市内で発生した際、災害対策基本法等に基づく要請又はあっせんにより他の地方公共団体等から派遣された職員に対し、宿泊費等の費用を弁償する手当として

災害派遣手当等を支給できるように制定する。

問 なぜ今のタイミングで条例制定するのか。

答 全国的に災害に対する対応が重視される中、広域的な応援体制等を取り、人員確保に努める必要がある。また、「丹波篠山市職員の特殊勤務手当支給条例の一部を改正する条例」において、職員への手当創設も行っていることから、市外から災害時に丹波篠山市に派遣される職員に対応できるように併せての提案となった。



問 今回の条例改正で見込んでいる人数・予算額について。また、国からの支援はないのか。

答 令和7年7月から、小学4年生から中学3年生までの通院医療費の所得制限撤廃は119人。令和7年度は9カ月分で313万円、1年間で約420万円。高校生世代の通院医療費の助成は939人。令和7年度は6か月で1007万3千円、1年間で2014万6千円を見込んでいる。

市単独事業となり、国からの補助金は今のところない。

■丹波篠山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例

県の保険料水準の統一に向けたロードマップの方針に基づき、令和7年度の国民健康保険税率を改訂しようとするもので、令和9年度の市町村標準保険料率に近づけるため、現在の税率との差を令和7年度から令和9年度までの3年間で約3分の1ずつ引き上げる改訂を行うもの。

問 兵庫県の標準にあわせるため、3年間で3分の1ずつ引き上げるとのことだが、令和8年度も対応できるのか。

答 令和7年度の県の税率が示されたので、3分の1ずつ上げるようにしており、不足分については財政調整基金を入れて、令和9年度に県の示す標準保険料率に合わせる予定である。

■丹波篠山市水道布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例の一部を改正する条例

水道整備・管理行政の国土交通省への移管に併せて、水道法及び関係政省令の一部改正され、安全な水道事業の継続に向け技術者を確保することを目的として、布設工事監督及び水道技術管理者の資格要件について、新たな要件の追加や技術上の実務経験年数の見直しが行われた。この改正に伴い、関連する丹波篠山市水道布設工事監督者の配置基準及び、資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例の一部を改正する。

問 職員の現状と実務についての現状は。

答 水道課は課長以下6名で業務を行っている。その中で水道技術管理者を一名置き、人材育成のため現場での指導や研修を受け、経験を積んでいる。



■丹波篠山市福祉医療費等の助成に関する条例の一部を改正する条例

政務活動報告会の開催

2月1日、四季の森生涯学習センターにおいて、4会派、4人の会派無所属議員から今まで取り組んできた政務活動報告を行いました。当日は30人を超える多くの市民に参加頂きました。各会派や議員からは、先進地での視察や調査で得た事例、知見の報告を行いました。報告については、動画で公開しています。



議会のコンプライアンス違反として「しない」「させない」「見逃さない」ための行動指針について、具体的な事例を踏まえて指導いただきました。

1月28日、丹波篠山市・丹波市議会合同研修会を開催しました。今回は、一般社団法人日本経営協会講師の宮脇俊夫氏(元・明石市副市長)を招き、「議員のコンプライアンス」事例で考察する不祥事防止について研修を行いました。

丹波篠山市・丹波市議会合同研修会を開催

議会改革調査特別委員会を設置

議会改革調査特別委員会

委員長	本多 紀元
副委員長	金崎 美和
委員	原田 豊彦
委員	岡 圭子
委員	桐村 裕一
委員	大内 正博

丹波篠山市議会基本条例に基づき、市民に開かれた身近で信頼される議会、市民の負託に応えられる議会の実現を図るため、6名の委員による委員会を設置し、議会基本条例の検証を行い、時代にあわせた議会活動のあり方を調査研究いたします。

議会報告会を開催します

丹波篠山市議会では、議会活動の内容を報告するとともに、市民の皆様からの意見をお聞きし、市政に反映していくことを目的に議会報告会を開催しています。多くの市民に参加してもらいたいという意思のもと、「テーマ型」で行います。皆様の参加をお待ちしております。

開催内容 第1部 12月及び3月定例会報告動画・意見交換
第2部 「各テーマ」についての意見交換(ワークショップ)

出席者 1班 ◎原田豊彦、安井博幸、本多紀元、前田えり子、野々村康、向井千尋
2班 ◎稲山 悟、岡 圭子、堀毛宏章、桐村裕一、小島政行、降矢杏奈
3班 ◎荒木礼子、隅田雅春、金崎美和、渡辺拓道、大内正博、上田英樹

開催日	会場	テーマ	担当
5月13日(火) 19:00～20:30	今田まちづくりセンター 2階 集会室	「地域の未来を担う人 育て守るためには…。」	1班
5月21日(水) 19:00～20:30	市民センター 2階 催事場1・2	「自治会・まちづくり協議会の現在・過去・未来」～持続可能な活動に向けて～	2班
5月22日(木) 19:00～20:30	西紀老人福祉センター 2階 多目的ホール	「丹波篠山の農業の未来像」～5年後の農業はどうなる?(今取り組むべき課題は)～	3班

☆カーテン ☆クロス
☆カーペット ☆クッションフロアー
☆ローマンシェード ☆手すり取り付け
☆ブラインド ☆システムキッチン
☆ロールスクリーン ☆リフォーム工事

センスアップ 改装を ご希望なら

アオキ装飾工芸

丹波篠山市瀬利1093
Tel 079-552-0506
Fax 079-552-6335
アオキ装飾工芸 検索

総合防犯設備士資格 保有
防犯設備の施工・点検承ります

「まごころと技術で奉仕する」

オカダ電工

あなたの家の防犯対策 万全ですか?

☎079-552-5243(代)
〒669-2307 丹波篠山市般若寺189 FAX.079-552-5543

～賛否の分かれた議案等の公開～

議案等	議席番号 議員名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
		金崎 美和	原田 豊彦	本多 紀元	堀毛 宏章	岡 圭子	荒木 礼子	桐村 裕一	小島 政行	隅田 雅春	前田えり子	渡辺 拓道	稲山 悟	降矢 杏奈	野々村 康	安井 博幸	大内 正博	向井 千尋	上田 英樹
第2号	市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
第3号	市議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の改正	×	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	-
第9号	国民健康保険税条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	-
第27号	丹波篠山市一般会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	○	-
第28号	国民健康保険特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	-
第29号	後期高齢者医療特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	-
第30号	介護保険特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	-
第39号	一般会計補正予算(第13号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	-

※○は賛成、×は反対。 ※上田議員は議長のため、採決には加わっていない。
※条例名・予算名は紙面の都合により簡略化しております。

【反対討論】

議案第3号 人件費の増などに伴い、財政調整基金の残高が危険水域にまで低下している中、議員の期末手当を引き上げるべきではない。(安井)

議案第9号 県の国保運営方針に従って保険税率を引き上げようとするもの。物価高騰で苦しむ家計に、さらに追い打ちをかける。(前田)

議案第27号 ①一般会計の総額が昨年度より約20億円も増え、財政調整基金残高が危険水域にまで低下した。②大幅な出生数低下に基づく学校園の統廃合計画が策定されず統廃合も進展していない。③職員人件費の約5億円増が市財政を圧迫している。財政規律が緩んでおり、持続可能な財政運営を危ういものになっている。(安井)

議案第27～30号 物価高騰が続くなか、令和7年度予算には、暮らしを守り、農業を守り、地域経済を活性化させることが求められる。国民健康保険税の引き上げで市民の負担は増えるばかりだ(前田)

【賛成討論】

議案第27号 地域手当導入は、公務員の給与に地域民間給与を適切に反映させるため、民間の賃金水準を基礎とし、物価等を考慮しその地域の在勤職員に支給される手当で、地方交付税に係る算定基準(費用は国が負担)となり、人材の流失や確保が困難な当市では、欠かせない制度と考える。(野々村)

議案第27～30号 各会計とも限られた財源の中で市民生活の質の向上と福祉の充実を図る予算案である。(降矢)

令和6年度 受理した要望等を市長に申し入れ

■児童の教育環境に係る要望事項

丹波篠山市立西紀南小学校 育成会会長

■児童の教育環境等に係る要望について

丹波篠山市立西紀小学校育友会 会長

■児童・園児の教育環境に係る要望事項について

丹波篠山市立西紀北小学校・きた幼稚園育友会 会長

■生徒の教育環境にかかる要望事項について

丹波篠山市立西紀中学校PTA 会長

■児童の教育環境に係る要望について

西紀みなみ幼稚園PTAさくら会 会長

本市議会議長あてに、5件の要望等をいただきました。要望書は、適切に対応されるよう市長に申し入れました。

令和7年3月25日会議

同意1号 ほりいひろゆき堀井宏之氏を副市長に任命することに同意した。

同意2号 にしだまさし西田正志氏を教育委員会委員に任命することに同意した。

同意3号 ほそみのりこ細見紀子氏を公平委員会委員に任命することに同意した。

同意4号 ながさわよしゆき長澤義幸氏と さわまさし澤雅史氏を固定資産評価審査委員会委員に任命することに同意した。

■兵庫県後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙
堀井宏之副市長が当選された。



令和7年度(2025年)施政方針、教育方針を問う



福祉と教育 / 向井 千尋

問 2025年は団塊の世代が75歳を迎え超高齢社会を迎える年である。2040年までは人口減少、少子化が進むため、「ゆるやかにつながる地域共生のまちづくり」が必要である。集落の未来を繋ぐための事業「ワクワク農村未来プラン」の取り組み状況を問う。

令和5年度からワクワク農村の取り組みに補助を始めた。補助金は計72自治会に活用いただいております。多世代交流や移住者との交流に活用いただいております。

「市民が主役、主体でつくるまちづくり」を推進しているが、市民団体の育成、資金面の支援が必要では。

市民プラザの登録団体は169団体となり、活動支援を行っている。自立運営してもらうための支援策として実施している市民活動助成金を活用してもらうことで、団体活動を支えていきたい。

デマンドバスの登録や利用状況は。

東部エリアの登録者は409人、1日あたりの平均利用者数は9.5人である。利用料は自家用有償旅客運送の運賃と同様に区域内は200円、区域外は500円となってい

る。西部エリアのデマンド運行については協議、検討を進めていく。

篠山養護学校が50周年を迎えた。特別支援教育のニーズが高まっており、環境整備を行っていくべきでは。

本年3月現在57名の児童生徒が通学しており、環境整備については既存の施設を工夫しながら使用していく。近年、小中学校の特別支援学級も増えているため、多様な学びの支援を行う。



篠山養護学校 50周年記念行事

防災について、ヨウ素剤配布の更新状況と啓発はどうか。また、火災被災者への総合的支援が必要である。

現在、累計12,407人にヨウ素剤を配布している。令和7年度は、国際博において原子力災害対策や安定ヨウ素剤配布に関するパネル展示を行い啓発していく。また、火災被災者への被災直後の支援と共に情報提供を行い、被害者に寄り添っていく。



令和7年度 施政方針、教育方針について



青藍会 / 小島 政行

問1 歳入歳出の見直しのために、「選択と集中」「スクラップ&ビルド」の観点から重点項目を絞り、「行財政改革方針」を策定し、職員一人ひとりに浸透させていくことが必要ではないか。

歳入歳出のあり方の検討は職員が一丸となって進めていくべきものであるため、これまでの篠山再生計画から継続している取り組みや、持続的発展計画で位置付ける取り組み項目を職員に周知する。

補助金見直しガイドラインを策定し、事業のスリム化を図ってはどうか。

再生計画に取り組んだ時点で不要なものは精査しているが、令和7年度に取り組む歳入歳出のあり方の検討の中で、補助金の内容についても改めて点検を行う。

令和7年度のふるさと納税額を6.5億円とする根拠は。

返礼品提供事業者の開拓や返礼品開発を継続すること、国際博などによる認知度上昇などを考慮している。**納税額を増やすために、市内企業に市長自ら返礼品へ**

の提供依頼を交渉してはどうか。

市長がトップセールスでするべきところがあれば、積極的に行っていきたい。

教育振興基本計画が作成出来ていないことについて、教育長のリーダーとしての自覚が必要ではないか。

教育委員会を代表するものとして本当に申し訳なく思っており、深く責任を感じている。



子育てするなら丹波篠山がいちばん！とみんなが思える「こどもまんなか」のまちの実現へ



日本維新の会丹波篠山 / 金崎 美和

問 保育士の働き方改革について。

令和7年度から、たきこども園、こんだこども園において、園内の清掃業務をシルバー人材センターに委託する。今後、たかしろ・城東・にしき保育園についても清掃業務の委託を進めていきたい。

潜在保育士の実習体験研修会を開催してはどうか。

他市の取組みを参考に、色々な手立てを検討する。

児童クラブの環境整備について。

現状調査をする中で、要望等を聞きながら対応していきたい。

小規模保育の取り組み方針について。

小規模保育開設に向けて協議を進める中で、市でできる支援をしていきたい。

放課後児童健全育成事業における長期休業期間等の食事提供について。

春季休業期間中に、民間事業者が試験的に実施される弁当提供の状況等を参考にしながら慎重に検討する。また、広めていくために、市のLINE、Instagramで紹

介していきたい。

全天候型こども・おとなの憩いセンターの実現へ。

「新たな憩いの場」の設置については、現在のところ計画はない。利用可能な既存施設のPRを行っていく。

給食費の無償化について、令和7年度は物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、小・中学校の給食費の半額を市で負担する事となっている。しかし、国の交付金を活用するので、次年度以降の財源の確約がなく、今後も継続的に取り組めるようさらに検討を進めて頂きたい。

「子育てするなら丹波篠山がいちばん！」とみんなが思える「こどもまんなか」のまちの実現に向け、給食費無償化を優先事業と位置づけ、市全体の財政状況の中で検討していく。



1. 働きやすい職場環境に
2. 安心・安全なまちづくりを



公明党 / 隅田 雅春

問1 カスハラ・パワハラ対策に職員名札の改善を。

職員名札のフルネーム表示は、市民に分かりやすいと考え、従来から実施してきたが、名字のみに変更しても、市民サービスに大きな低下は見られないと考えるため、実現に向けて検討を進めたい。

週休3日制度の導入を。

丹波篠山市のように職員数が少ない職場では、デジタル化や窓口の省力化など、行政サービスの提供方法の見直しや業務スクラップなどを進めない限り、現実的な運用は難しいと考える。

窓口時間の短縮について。

先行導入している他市の状況、利用者の意見などを踏まえ、住民サービスの低下につながらないように配慮した上で検討する。デジタル行政改革の一環として始まっているオンラインでの出生届については、令和8年度より全市区町村でのオンライン化に向け準備が進められていることから、市でも今後対応する。

問2 防犯カメラの設置や防犯用品購入費の補助対象者に個人も加えられるよう、制度の見直しを行っては。

補助金の対象者を個人にも拡大すると、費用が多額となるため補助は難しい。

応急仮設住宅の建設地の検討を。

応急仮設住宅の建設地には、市有地や総合スポーツセンター、四季の森運動グラウンド、並木道中央公園などを想定している。災害発生時に速やかに建設に着工できるよう取り組んでいく。

神戸の竹灯籠を使った「防災教育」について。

この30年間、学校現場では、震災を風化させない、命の大切さや人と人のつながりの大切さを指導している。竹灯籠の活用について、校長会を通じて防災教育の視点による活用を紹介していく。





1. 丹波篠山黒豆の高温、水不足対策について
2. 消防本部救急所要時間の短縮と隊員の心のケアについて



問1 令和6年の丹波篠山黒豆の作柄は非常に悪かった。私の在住する小学校区すべての農会長等と面談し、緊急アンケート調査を行った。市に原因調査と対策情報発信を求める声が一番多かったが、どう対応するか。

高温対策として、比較的良好的な作柄だった農家の有効な栽培方法を収集・分析し、「優れた事例」として、広く提供して安定的な黒豆生産に繋げていく。

情報発信は、新たに農政協力員を通じた方法や、市の広報やホームページなど積極的に活用、発信する。

黒枝豆「販売解禁日」について、多くの農業者の声を聴いて、生育状況に見合った日に設定するよう改善を求める声が多いが、市長の見解を求める。

設定には生産者代表に参加いただく中で、観光協会などから、もっと早く、自由にとという意見もある。解禁日はシーズン開始のお知らせで最盛期でないことの周知をきちんと行っていく。

販売目的以外に生産されている黒豆零細農家等へ支援策創設が必要と考えるが、市長の見解を求める。

現在の水田活用支払い交付金制度が十分周知できていないことから、単価見直しにくわえて、現取り組みでより多くの皆さんが交付金を受け取り、活躍頂くように進める。



問2 医療救急搬送の実態について、119番通報から医師に引き継ぐまでの時間が全国平均より3.1分、兵庫県平均より6.1分遅い。特に医療機関を探すのに時間を要しているため新緊急搬送支援システムの導入を求める。

現システムのバージョンアップや医療機関との連携強化に加えて、新システムの導入で1分、1秒でも短縮できるなら、前向きに検討していきたい。

搬送先を見つけるため長時間交渉する救急隊員のメンタルヘルスケアが必要と考えるが見解を求める。

研修会、演習や訓練をとおして、ストレスの軽減を図りながら、消防職員ひとり一人が、最大のパフォーマンスを上げられるように努めていく。



「非核平和都市宣言」に基づく取り組みを



問 日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)のノーベル平和賞受賞は、核の危険に対する警告と同時に核兵器を使用させず、核のない世界の実現を世界に呼びかけるものとなった。唯一の戦争被爆国・日本の核兵器禁止条約への署名・批准が世界的にも期待されている。

ところが、政府は国際舞台では被爆国であることを強調し、ヒロシマ、ナガサキを繰り返してはならないと言いながら核兵器禁止条約参加を一貫して拒否している。条約は2021年1月に発効し、第3回締約国会議が3月に開催されたが、オブザーバー参加さえしなかった。

被団協がノーベル平和賞を受賞し被爆80年を迎える中、今こそ日本政府は核兵器禁止条約に加わり、核兵器の禁止から廃絶へ先頭に立って世界をリードする時だ。条約に背を向ける政府の態度について市長の考えは。

核兵器に関することは私たちの未来に大きな影響を与える重要なテーマであると認識している。核兵器のない平和な社会の実現は国民の願いだ。私自身も思いは同じだ。市も加盟する平和市長会議で、令和7年1月17

日に核兵器禁止条約に署名、批准するよう、内閣総理大臣に要請した。

市では「非核平和都市宣言」をし、平和のための施策が進められている。被爆80年、戦後80年の節目の年。宣言に基づいて例年以上の取り組みを進める時ではないか。令和7年度の計画は。

平和施策の取り組みとして、世界平和アピール七人委員会の講演会、平和パネル展や平和図書コーナーの設置により、市民に核兵器廃絶と恒久平和の意識啓発を図っていく。また、戦後80年にあたり、「平和のつどい」を8月6日に実施する予定だ。戦争の悲惨さや平和の尊さについて、みんな考え、次世代につないでいけるよう企画していく。



1. 市財政健全化の為、公共施設の統廃合を
2. 救急医療の課題解決の為に



問1 令和7年度末の財政調整基金残高6億3,873万円は少なすぎではないか。財政運営についての見解を求む。

今後も限られた予算の中で適正な予算編成に取り組み、標準財政規模の15%残高(約21億円)を目指す。

市内の年間出生数が200人以下に減少し、複式学級の小学校が増える。幼、保のこども園化と小、中学校の再編・統廃合が不可欠ではないか。

将来的には全市的に認定こども園化を目指し、しかるべき時期に検討する。小中学校再編計画の策定は、慎重に検討すべきものと認識している。また、小規模校のメリットは大きいと考えている。

公共体育館の統廃合として、今田町にある2つの体育館を1つに集約すべきではないか。

何れの体育館も地域にとって必要とされている。釜屋の健康増進センター体育館は、令和7年度の改修工事に向け、適切な管理運営を行っていく。

問2 昨年の救急車の出勤回数は2,551回と、近年増加傾向にある。持続可能な救急体制を行うには、軽症の場合における救急車利用の有料化の検討も必要ではないか。



市消防本部での救急訓練

市では救急車を有料化する予定は無く、救急車の適切な利用を呼びかけていく。

令和7年度に県下で導入される救急安心センター事業(#7119)は、救急車の適正利用につながると思うが、導入しないのか。

これは、24時間365日対応の救急医療の電話相談事業であり、救急安心センター事業の全県展開へ、市として参画する方針である。



本市の観光客受入れ態勢について



問 劣化した市内観光案内板の修復を。市内の観光ポイントや街歩きを楽しめる十字路などの街角には、二次元コード付の観光案内板が数多く設置されているが、劣化によって案内の内容が消えて不明なもの、二次元コードを読み込めないものが存在している。早急に修理・更新すべき。

平成27年度に設置した48箇所の「二次元コード付案内板」および平成21年度に設置した30箇所の「石柱型の道標」をそれぞれ点検し、必要な補修を行う。

市内の主な石碑に案内板の設置を。公有地等に建立された主な石碑で説明書きのないものには案内板を設置し、市民や観光客に分かるようにしては。

顕彰碑等の石碑で、地域にとって重要な歴史遺産と言えるものについては、地域や団体が主体となり、「地域の歴史文化を活かしたまちづくり助成金」の活用をもらい、案内板等を設置してもらえよう周知・啓発していく。

篠山城跡三の丸北部ゾーン「東部エリア」の整備を。北

堀水際の2本の杉の木が、水面近くまで傾いており、内1本は、ほぼ枯れ木状態で、根こそぎ北堀に倒れ込む可能性があるほか、見栄えの良くないロープやコンクリートブロックが残っている。

また、地域著名人の台座付き銅像があったが、銅像は、戦時中の「金属類回収令」で国に供出され、今は台座部分と侵入防止のための石柱が残り、石柱は破損し手つかずの状況となっている。ここは本来、市民や観光客が憩える場所であり整備を進めるべき。

杉の木については、伐採に向け県と協議し、指摘のトラロープ、コンクリートブロックや石柱については撤去する。



三の丸の顕彰碑



倒れそうな杉の木



1. 丹波篠山国際博を教育にどう活かすのか
2. 丹波篠山市の国土保全について



問1 教育行政として丹波篠山国際博をどう位置づけ、どのように活用しようとしているのか。

教育方針では、学校教育の部分で国際博にふれられていないが、ふるさと教育に良い機会だと考えている。現行の地域学習をさらに深めて、郷土に誇りを持つ子どもたちを育てていきたい。

問2 本市の郷土(国土)は、絶え間ない人々の働きかけによって守られている。地域力が弱ってくる中、令和7年度の市の取り組みについて聞く。①山林保全について、自伐型林業を「環境保全型」と位置付けようとしているが、全ての林業で環境保全を目指してもらわなければならないか。②市は山林の寄付を受け付けようとしている。社会的に求められていることであるが、いささか事務が拙速である。山を手放したい潜在的ニーズは高い。慎重に進められたい。③ふるさとの小川とも呼べる普通河川の維持管理予



算が少なすぎるのではないか。

①森づくりについて検討いただいている審議会の答申に自伐型林業(環境保全型)との記載があり、それを施政方針に記載した。しかし、市としては、森林組合を含めたすべての林業者に環境保全に取り組んでいただいていると認識している。議員指摘の方向で林政を進めたい。②所有者不明の山林が増えるなど国土保全上、山林の寄付を受け入れていかざるを得ない。寄付を希望する人は少ないと思っているが、議員指摘のように議会とも相談させていただきながら進めていきたい。③市の管理する普通河川は206河川で総延長179kmあり、圃場整備等で手が増えられたものなど里地部分にあるのが8割、残りの2割が山間部を流れている。令和7年度は地元要望が少なく予算額も小さい。長い延長を管理するのは難しいが、要望が無くても管理できるよう「普通河川維持管理要綱」を作成し維持管理に努めていきたい。



1. 黒大豆「丹波黒」の継承を
2. 産後ママのサポート事業の強化を



問1 気候変動が丹波黒の生育に深刻な影響を与えているが、危機感。また丹波黒を未来へ継承するための具体的な対策は。

生産量の減少と品質の低下に強い危機感を持っている。今後もJAや普及センターと協力し、灌水方法や灌水時期、注意点など情報発信に努める。

不作の状況を打破し、農家の方々の意欲向上のために丹波篠山地域農業再生協議会において、黒大豆に交付金を交付するなど早急に検討すべきでは。

再生協議会において、令和7年度は、黒大豆の単価を10アールあたり3万5千円から3万7千円に増額し、黒大豆の栽培が減らない取り組みをしていく。

丹波黒の安定生産への支援策は。

農業機械の導入に対し助成を行い、農家負担の軽減と安定生産に繋げる。品質向上に向け、栽培こよみの見直しや堆肥の購入、散布費用の助成など取り組む。

問2 産後ママのサポート事業において、利用回数の引き上げ、費用負担の軽減を検討すべきでは。

令和7年度から日帰り型ケアは利用回数を2日から3日へ拡充する。本市の利用料金は妥当と考える。

申し込みをオンライン申請に切り替えてはどうか。

今後、医療DXと関連付けて協議していきたい。

事前予約できる事で、協力機関やMy助産師の確保の整備も円滑に進められると考えるがどうか。

今後、事前予約を導入できるか検討していく。

My助産師の時給アップによる人材確保、労働時間制限の緩和による柔軟な勤務体制を見直しては。

条件や状況を踏まえ、専門職の報酬額を考慮し、今後慎重に検討を進めていきたい。

移住者や核家族の増加に伴い、妊娠期から出産後まで、切れ目のない支援、環境整備の一層の強化を。

市内外の方々にもご利用いただける環境を構築し、今後も産後ケアをはじめとする母子支援に取り組む。



キャッシュレス決済の推進と支援について



問 近年、全国的にもキャッシュレス決済の需要が高まってきており、本市でも丹波篠山国際博が開催されることから、キャッシュレス決済環境の整備は重要な課題と施策です。キャッシュレス決済の現状と今後の推進について、どのように考えているか。

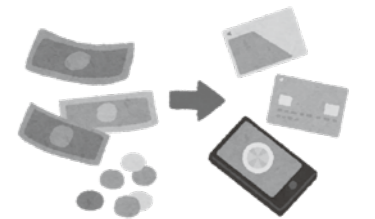
市内のキャッシュレス対応状況はすべて把握できていないが、市商工会に依頼して、事業者を対象に導入の有無や今後の導入希望の意向調査をしていく予定。導入に際しては、導入時や決済時の手数料などのコストに対する効果という観点で、事業者が導入の必要性をどう感じるかが重要だと考える。

キャッシュレス決済の導入推進については、まずは、セミナー、勉強会を開催してはどうかと考えている。商工会のアンケート結果などを参考に、事業者のニーズを把握していく。既にキャッシュレス決済を導入されている事業者の支援としては、ホームページやデジタルマップなどに情報を掲載するなど、デジタル地域ポイントとも合わせてPRを検討していく。

高齢者を含む市民へのキャッシュレス決済利用促進策についてはどのように考えているか。

令和6年度はスマートフォン講習会を夏季と冬季に2回実施し、夏季には講座内でキャッシュレス決済の仕組みや基礎的な知識も紹介した。デジタル活用不安のある高齢者等市民に対して、令和7年度も引き続きスマートフォン教室を開催し、その中でキャッシュレス決済の利便性や安全性、サポート体制に関する内容を盛り込むことを検討する。

国際博の実行委員会でも、三井住友銀行に来てもらい事業者を対象としたセミナーの実施も予定している。



誰ひとり取り残さない学びの保証のために



問 現在、市では不登校や病気欠席を理由に教育を受けられない子どもが100名以上いる。不登校の未然防止・早期対応のため、スクールカウンセラー(SC)配置日数増加と小学校へのスクールソーシャルワーカー(SSW)の小学生への早急な配置が必須と考えるが、令和7年度の増員の方向性も含め見解を伺う。

現在、SSWは市内に合計9名を配置、週1回全ての中学校と小学校2校、それ以外の小学校にもニーズに合わせて派遣している。令和7年度については、SC、SSWの増員の計画はないが、児童生徒や保護者のニーズを注視し、柔軟に対応していきたい。

学校には行けませんが、学びたい子どもたちのために、ICTを活用した授業配信などを行ってはどうか。

授業配信は、児童生徒の状況によりケースバイケースの対応となり、本人や保護者と十分な調整を行ったのち実施している。中学校においては令和7年度から民間の授業配信サービスの本格導入を予定している。

感情の度合いや種類を視覚的・数値的に表現する「感情

スケール(Emotion Scale)]を活用することで、早期に子どもの小さな変化に対応できると考える。タブレットのトップ画面に直感的な表情スケールボタンを配置することで、感情を伝えやすくなり、いじめや不登校の未然防止策として期待されるが見解を伺う。

直感的な感情スケールボタンによる入力、令和5年度より導入に向け検討している。すでに配置されている1人1台端末の「まなびポケット」というアプリケーションの感情スケールボタンの活用による健康観察を、令和7年度は複数校をモデル校として実施していく計画である。





1. さらなる商工業の振興と地域経済の活性化について
2. 立地適正化計画ならびにJR 篠山口駅前整備構想について



問1 丹波篠山市商工業振興基本条例において、市の責務としている事項の取組状況と成果、検証・評価・施策への反映状況はどうなっているのか。さらに商工業を発展させるため、他市で取り組んでいる中小企業振興審議会の設置や商工業振興基本計画を策定し、地域経済の活性化に取り組んではどうか。

篠山技能高等学院での技術・技能の継承、丹波焼・王地山焼は職人育成として窯元弟子入り支援、農工団地や空き工場などへの企業誘致、新規起業家への経済的支援、新規卒業者就職奨励金、企業ガイドブックの配布、商工会への活動補助として空き店舗対策や商店街の賑わい創造などに取り組んでいる。

評価については、有識者などで構成する「経営発達支援事業検討委員会」に出席し、意見をいただき、進捗状況を確認して改善を促している。

商工会と連携し、現在「経営発達支援計画」を策定しており、国の認定を受け、商工業振興を推進している。現在、新たな計画策定や審議会設置を行う予定はないが、

他市の状況などを研究していきたい。

問2 立地適正化計画策定の意義、スケジュール、効果などを説明願いたい。また、JR篠山口駅前整備構想の策定やJR篠山口駅周辺まちづくりビジョンで示された将来像の実現に向けた市の考え方は。

立地適正化計画は、概ね20年後の丹波篠山市の姿を見据え、居住区域や医療・福祉・商業、公共交通等の都市機能の誘導によって、19のまちづくり協議会を拠点に持続可能なまちづくりをめざすものである。地域の意見を聞きながら2カ年で策定していく。

丹波篠山市が担う役割である駅舎や駅前空間のリニューアルに向け、JR篠山口駅前整備構想の策定、整備に要する財源を確保するため、国や県との協議を順次進め、実現を図っていきたい。



1. VRによる認知症セルフチェッカーの導入を
2. 市内中学校に空調設置を

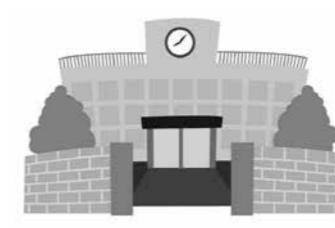


問1 高齢化社会に伴い認知症患者も増加する。軽度認知症は40代から始まる。幅広い年代への周知の為、VRによる認知症セルフチェッカーを導入してはどうか。

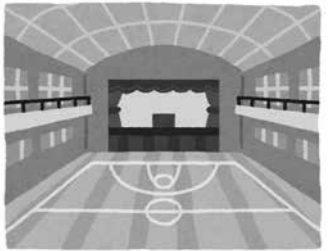
市としては「認知症サポーター養成講座」や「気づきシート」などで周知啓発をしている。「VRによるセルフチェッカー」は気軽に自己チェックできることに加え、客観的な判定ができるため、軽度認知障害(MCI)の早期発見の有効な手段であることから、先ず、市が主催するイベントで試行的に活用し、導入効果の検証を行う。

問2 子ども達の教育の場であり、避難所にもなる小中学校の体育館に空調を設置することは重要である。令和15年までの国の補助金を活用し、実施するべきではないか。

現在の空調設備の整備状況について、篠山養護学校を除いた整備率は、



普通教室では100%、特別教室で99%、体育館は0%。授業や部活動の際には、暑さ指数を管理し、活動内容や場所、時間などの工夫を行い、児童生徒の安全を確保する取り組みを行っている。また、補完的な対策として、大型扇風機やスポットクーラーの整備を行い、児童生徒の安全確保の取り組みを行っている。空調の必要性は十分に認識しているため、今後も様々な政策をする中で、市の財政状況を考慮しながら検討していきたい。



「議員と語る会」を開催

思いや意見を伺いました

【委員会報告の見方】

- | | |
|-----------|-----------------|
| ① 参加団体名称 | ③ 参加団体の主な意見や課題 |
| ② 意見交換テーマ | ④ ③に対する常任委員会の対応 |

応募された団体から出された希望のテーマに基づき、各団体の活動内容や市施策への提案など様々なご意見をいただきました。今後の議員活動に繋げていきます。

民生福祉常任委員会

- ① 丹波篠山市手をつなぐ育成会
- ② 障がい者が生きていくうえでの困りごと
- ③ 事業所の支援員の人件費について、市から補助金を交付されているが全員分ではないため経営が厳しい。障がい者が安心して暮らしていくために、生活介護事業所への支援、人材の確保が必要である。
- ④ いただいたご意見は、全議員で情報を共有し、市(執行者)に情報提供を行いました。また、委員会でも継続調査をするべきと判断し、1月9日に所管事務調査を実施しました。

産業建設常任委員会

- ① 味間地区まちづくり協議会・味間地区自治会長会

- ② JR篠山口駅周辺まちづくりビジョンについて
- ③ 西吹大沢新線のトンネル整備を早期に着工願いたい。「JR篠山口駅周辺まちづくりビジョン」を市の都市計画に盛り込んで進めてもらいたい。駅周辺の建物の高さ制限を。駅東口にあるフェンスで仕切られたJR所有の駐車場を、市の所有に。
- ④ いただいたご意見は、全議員で情報を共有し、市(執行者)に情報提供を行いました。

産業建設常任委員会

- ① 今福自治会
- ② 農家に対する補助金・病院存続について
- ③ 草刈りの労力や負担軽減のため防草シートや除草剤の購入補助が必要である。獣害柵設置にかかる労力や費用の負担が大きい。集落農業守り隊応援事業の対象要件を、3戸ではなく1戸にしてほしい。
- ④ いただいたご意見は全議員で情報を共有し、市(執行者)に情報提供を行いました。



1. 丹波篠山市の食育と農について
2. 夏期の中学校の自転車通学について



問1 生活スタイルの変化によって、行事食や郷土料理を知る機会や食べる機会が減っている。行事食や郷土料理を未来に継承していくために、さらに啓発すべきと考えるが。

市の「第3次食育推進計画」の評価では、郷土料理を作れる人は40歳以上で30%を上回っているものの、19歳から39歳では11.7%と低く、若い世代への継承としてSNS等を活用したわかりやすい方法で発信していく。令和7年度は、丹波篠山国際博に関連した取り組みの中で、丹波篠山の豊かな食文化を市内外の方に伝え、交流する機会にしていきたい。

近年、山の芋や小豆の作付面積が大きく減少している。また、住山ごぼうなどの伝統作物等について、どのように継承しようと考えているのか。

山の芋や小豆の生産量は特に減少傾向にあり、これらの継承が重要な課題と認識している。市では優良な系統



とふめし

の遺伝資源を継承するとともに、国の産地交付金を活用して生産者を支援し、産地維持のための基盤づくりを行っている。地域伝統作物として位置づけている大山スイカ、住山ゴボウ、天内芋も含め、生産者のやりがいにつながるように地域農業の活性化を図り、持続可能な生産体制の確保に向け支援していく。

問2 夏期、小学校では熱中症対策として一定の通学距離となる児童を対象に、下校時にバス等の運行を実施する遠距離通学バス運行事業を行っている。中学校の自転車通学についても同様に、スクールバスに乗車できるようにするなど、夏期はバス通学も選択ができるようにしてはどうか。

中学校は個々の通学となっており、部活動の関係等から下校時間も一定ではない。また中学校におけるスクールバスの利用は、路線バスの運行ルートがある場合に限り実施している。路線バスの運行ルートがない中学校は熱中症対策にバス通学を選択することやバスを運行することは難しい。

産業建設常任委員会 所管事務調査

今田に整備される「道の駅」の進捗について調査

道の駅の整備について

産業建設常任委員会では、令和7年1月に「道の駅の整備」に関し、道の駅の整備場所である「こんだ薬師温泉ぬくもりの郷」にて、現地踏査と整備計画などについてヒアリング調査を行いました。

調査では、道の駅に道路休憩機能、情報発信機能及び地域連携機能を整備することにより、道の駅利用の来訪者と温泉施設の利用者を増やし、一層の交流人口や関係人口の拡大を図ること。また、地域経済の連動・交流機会を高める活性化拠点施設として事業整備を展開するとの説明を受けました。

道の駅の整備のスケジュールは、令和7年夏から秋頃に整備工事を開始する計画で、合わせて指定管理者を決定し、道の駅の登録は令和8年6月頃を予定、整備完了後、準備期間を経て、令和8年度下半期のオープンを目指すとの説明がありました。

整備については、既存施設を活用することを基本としています。

その内容としては、道の駅として来訪者の増加が見

込まれるため、駐車場を整備します。また国道や一般県道から道の駅までの案内板を設置し、既存の食品加工棟を改修し、24時間使用可能なトイレ、情報提供設備の整備を行います。

さらに、食品加工棟の前面にデッキテラスを設け、その先には眺望の美しい北側を望む眺望デッキと芝生広場を設けます。農産物直売所は、農の都丹波篠山に相応しい特産物・農産物の販売により農家の所得向上と、来訪者との交流を通じ出荷・生産者の農業経営の意欲向上を図ります。レストラン棟は、温泉利用客と道の駅利用客の双方が自由にくつろげる飲食スペースとして、レストラン室内の改修を行う予定です。

完成した道の駅が多くの方に利用いただける施設となるよう、関係機関および庁内での協議を十分にを行い、魅力ある道の駅を目指して整備を進めることが重要です。今後も、整備の進捗について注視していきます。

地域医療対策特別委員会 所管事務調査

救急医療、医療体制、介護について調査

当委員会は、本市における安心な医療体制の保持に必要な調査を行うため、令和6年6月に設置し、これまで7回の委員会を開催しました。今回は、本市が必要とする救急医療、医療体制および介護の現状と課題について報告いたします。

①救急医療の現状と課題について

救急搬送は年々増えていますが、市内病院への搬送件数は減っており、丹波医療センターなど市外への搬送が増えています。また、搬送時間も長くなっています。軽症患者の救急要請も増加していることから、国が進めている「#7119」の早期導入が必要です。

一次救急に関しては、休日診療は、にしき記念病院が担っています。また、夜間は、病院の当直医と看護師等が対応していますが、医師の確保が困難で、入院・手術の必要な二次救急については対応が難しくなっています。

②医療体制の現状と課題について

ささやま医療センター外来診療科目のいくつかは、本年3月で終了することから、地域医療の中で、人材

や診療科目をどのように維持していくのが課題となります。

また、入院、手術など専門性が必要な二次医療が難しくなることから、今後は、夜間救急や軽症入院、回復期リハビリ機能など一次医療の中核病院として維持していくのか、検討が必要になると思われます。

③介護の現状と課題について

現在、市内の介護サービス事業所数は適切となっています。また、医療・介護・福祉の連携についても、市との協体制が構築されています。課題は、介護人材の確保と介護を支える医療の維持にあります。

最後に「ささやま医療センター」ですが、市と兵庫医大の基本協定の期限が本年7月であることから、本市、兵庫医大および兵庫県の3者による協議を早期に行うべきです。また、他病院への営業譲渡になれば、赤字である病院を引き継ぐこととなりますので、本市としても、財政支援をはじめ柔軟な対応が必要ではないかと考えます。

総務文教常任委員会 所管事務調査

保育士人材の確保に向けて

「第3期丹波篠山子ども・子育て支援事業計画」について

「第3期丹波篠山子ども・子育て支援事業計画」について、教育委員会への聞き取り調査を行いました。第2期計画が令和6年度で満了となることから、近年の法改正や社会潮流、子どもを取り巻く状況や新たな課題への対応を含めた第3期計画(令和7年から11年までの5年間)が策定されようとしています。

丹波篠山市の抱える大きな課題は、待機児童と保育児の発生、保育士人材の確保です。これらの課題に対して、教育委員会は、認定こども園の開設や保育園の増設、就職フェア開催等に取り組んでいますが、抜本的な解決には至らず、第3期計画でも引き続き取り組んでいく方針です。

「こども家庭センター」と「こども誰でも通園制度」は、第3期計画の大きな柱です。

「こども家庭センター」は、令和7年4月から母子保健機能と児童福祉機能の一体的な運営を行うべく準備が進められています。

また「こども誰でも通園制度」は、令和8年度からの全国一斉実施に向けて検討を始めようとしています。事業実施には、今以上に保育士人材の確保が必須となります。

今回の計画に用いられている将来的な推計人口等のデータについては、令和7年度から策定に入る総合計画との整合性が必要です。さらに計画の推進にあたっては、庁内関係部署の連携が必要となることから、推進体制について明記することで責任の所在も明らかとなり、PDCAサイクルも上手く機能すると期待されます。

長期的な視野での幼保一体化計画、待機児童数ゼロとする対策、保育士の人材確保・定着への取り組みに重点を置き、県との連携、他市の事例を参考にしながら、「子育てするなら丹波篠山がいちばん」となるよう、取り組むことを求めます。



民生福祉常任委員会 所管事務調査

地域福祉と子育て支援の現状と未来への取り組み

より安心して子育てできるまちへ

市独自の事業である「My助産師」による産前産後ケア、妊婦救急搬送事業「お産応援119」および産後ママのサポート事業それぞれの課題と今後の展開について調査を行いました。

My助産師は初産妊婦で約8割、第2子ではほぼ100%が利用されており、産後ママのサポート事業については、日帰りデイケアのニーズが高まっているため、ゲストハウスを新たに拡充していることを確認しました。子育て世代のニーズに沿った事業が展開されるよう、今後も調査・研究を続けていきます。

丹南精明園の事業運営の移転と今後の方針について

丹波市柏原町へ移転する丹南精明園の現地踏査を行いました。今後、跡地活用ならびに移転後の市内グループホーム運営について、これまで以上に兵庫県社会福祉事業団との情報交換を密にし、利用者や地元自治会には支障がないよう、市としても支援を行う必要があると考えます。



障がい者支援の現状と課題について

障害者総合支援センター「スマイルささやま」の現地踏査では、指定管理者である「わかたけ福祉会」から障がい者の自立支援の取り組みについて説明を受けました。障がい者の支援体制について、人材確保が課題となっており、職員の定着化や業務の見直しを進めていることを確認しました。今後も本市の障がい者福祉がより良い方向に進むよう取り組んでいただきたいと思います。

買い物困難者への支援と見守りを

市内では高齢者等への買い物支援が行われていますが、市と社会福祉協議会で事業が重複しているため、事業の調整を図る観点から調査を行いました。市の事業については、事業開始から数年が経過しているため、利用者・事業者へのアンケート調査が必要であると考えます。社会福祉協議会とコープこうべの共同事業は継続が困難であるため、新たな形態を模索していることを確認しました。今後も関係機関と協議の上、買い物支援の在り方を検討する必要があると考えます。